

基本に忠実か勝手か…箸の持ち方は一つの指標



◆山田耕二(やまだ・こうじ) 1942(昭和17)年5月23日生まれ、73歳。74年、西陵商ラグビー部監督に就任以降29年間で全国高校ラグビー大会に19回出場、97年には愛知県勢として史上初の優勝。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

性格はプレーに色濃く反映される。実は、箸の持ち方もプレーの特長として現れる。きちんと箸を持って食べられる子ほど基本に忠実で正確なプレーをする。箸がちゃんと持てない子ほど、試合で簡単なミスをしてしまう傾向があるのだ。

前回述べたように、しつけの行き届いた家庭で育った子

は正しい箸の持ち方をしてい

る。逆に「放任」の家庭はど、おかしな箸の持ち方をしている子が多かった。

あくまで私感であるが、人と会ったら「こんにちわ」、食べる前に「いただきます」が言える子は、普段から親の言つことを素直に聞いて育っている。ラグビーのように組

織プレーが求められるスポーツでは、そういった素直さが、組織としての決まりを忠実に守り、丁寧にプレーすることを可能にするのだ。

逆に、親の言つことさえきかなく、勝手に勝手なことを進めてしまう。プレーで

堂で相手チームと一緒になつた時、選手の箸の持ち方をチェックした。

おかしな持ち方が多いチームは「個人の技術や能力はたけているが、組織力は警戒しなくても大丈夫だな」と勝算を立てられ、実際に勝つことがほとんどだった。逆に、正しい持ち方が多いと「気を引き締めて挑まなければ足をすくわれるぞ」と警戒したものだ。

◇

夜回りまでして高校日本一に導いた山田耕二さんと生徒とのエピソードを連載する。

育ち方に現れるプレーの特長